

報道関係者各位

2022年3月卒業予定者の採用・就職に関するアンケート

就職先の最終的な決め手は、自分の能力、個性が活かそうだから、成長ができそうだから、仕事が楽しそうだから。

人事労務分野の情報機関である産労総合研究所（代表・平盛之）は、このたび大学新卒予定者、大学キャリアセンター、採用・就職支援者、企業担当者を対象にした「2022年3月卒業予定者の採用・就職に関するアンケート」を実施しましたので、結果の概要を発表します。調査の詳細結果は、当所発行の『人事実務』5月号（5月1日発行）に掲載予定です。

主なポイント

1.【採用・就職活動で使ったツール・役立ったツール】（2頁）

・2022年3月卒業予定者が、就職活動中に使用し役立ったツールは、就職ナビサイト（64%）、志望先サイト（27%）、就活口コミサイト（24%）等。一方、企業側が採用活動中に使用し役立ったツールは、就職ナビサイト（72%）、自社サイト（46%）、大学キャリアセンター（36%）。（図表1）。

2.【学生のキャリアに関する活動データの活用状況】（3頁）

・学生のキャリアに関する活動データ（授業、講座、インターンシップの参加、相談履歴等）を蓄積（記録）している大学は74%とおよそ4分の3。蓄積している大学のほとんどが、進路・キャリア支援の時に、このデータを活用している。（図表3）

3.【2022年度新卒者の傾向（特徴）】（3～5頁）

- ・入社予定先で何年くらい働くつもりかを尋ねたところ、できるだけ長く（47%）が最も多く、次いで、考えていない（18%）となっている（図表4）。
- ・就職先の最終的な決め手のトップ3は、自分の能力、個性が活かそうだから（18%）、成長ができそうだから（16%）、仕事が楽しそうだから（14%）。（図表5）。
- ・2022年3月卒業予定者の就職活動や進路選択に関わるなかで、大学キャリアセンター、企業担当者、採用・就職支援者が、例年と比較して感じた特徴としては、就職活動への取組みが二極化したこと、配属や社風、職場の雰囲気に関心のある学生が増えたこと等が挙げられる（図表7）。

本件に関する
問い合わせ先

産労総合研究所 「新社会人の採用・育成研究会」事務局

担当：白ヶ澤、片上、酒井、片岡、重山

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1 三宅坂ビル

■ 電話 03(5860)9779

■ e-mail: freshers@sanro.co.jp

■ <https://www.e-sanro.net>

産労総合研究所
Sanro Research Institute, Inc

1 採用・就職活動のサポート状況

(1) 採用・就職活動で使ったツール・役立ったツール（学生調査・企業調査）

2022年3月卒業予定者が就職活動中に活用したツールのうち、役立ったものは、割合の多い順に（複数回答）、就職ナビサイト（64%）、志望先サイト（27%）、就活口コミサイト（24%）、大学キャリアセンター（23%）となっている。

一方、企業側が採用活動中に使用し役立ったツールは、割合の多い順に（複数回答）、就職ナビサイト（72%）、自社サイト（46%）、大学キャリアセンター（36%）となっている（図表1）。

図表1 採用・就職活動で役立ったツール（役立ったツールとして学生割合の高い順に表示。複数回答）

ツール	役立ったツール		活用したツール	
	学生	企業	学生	企業
就職ナビサイト	64%	72%	86%	86%
志望先（自社）サイト	27%	46%	56%	68%
就活口コミサイト	24%	2%	50%	2%
大学キャリアセンター	23%	36%	43%	62%
逆求人サイト（オファー型求人サイト）	14%	10%	49%	14%
就活エージェント・就職塾（就職支援・新卒紹介サービス）	13%	8%	29%	10%
志望先（自社）SNS・動画	11%	16%	25%	20%

（注）上記以外の選択肢として、「SNS」「OB・OGアプリ」「マッチングイベント」「その他」をあげて調査。

(2) 採用・就職活動中にアドバイスを得た相手（学生調査）

2022年3月卒業予定者が就職活動中にアドバイスや情報を得た相手は（複数回答）、親（51%）、大学キャリアセンター（50%）が多くなっている。頼りになった相手としても、親（26%）、大学キャリアセンター（23%）が上位にきている。なお、就活エージェントについては、約3割がアドバイスを得て、1割弱が頼りになったとしている（図表2）。

図表2 採用・就職活動でアドバイスを得た相手（頼りになった相手上位6位を表示。複数回答）

頼りになった相手			アドバイスをもらった相手		
1位	親	26%	1位	親	51%
2位	大学キャリアセンター	23%	2位	大学キャリアセンター	50%
3位	友人	21%	3位	先輩	45%
4位	先輩	20%	4位	友人	41%
5位	同級生	14%	5位	同級生	32%
6位	教員、就活エージェント、卒業生	9%	6位	就活エージェント	31%

（注）上記以外の選択肢として、「兄弟」「親戚」「知人」「民間のアドバイザー」「ハローワーク」「就職塾」「サイトやSNSでつながった人」「その他」「特にいない」をあげて調査。

(3) 学生のキャリアに関する活動データの活用状況（大学調査）

大学における、学生のキャリアに関する活動データ（授業、講座、インターンシップの参加、相談履歴等）の蓄積（記録）状況をみると、蓄積している大学は74%とおよそ4分の3、蓄積していない大学は26%となっている。データを蓄積している大学のうち、進路・キャリア支援の時にこのデータを活用しているのは99%となっている（図表3）。

図表3 学生のキャリアに関する活動データの活用状況

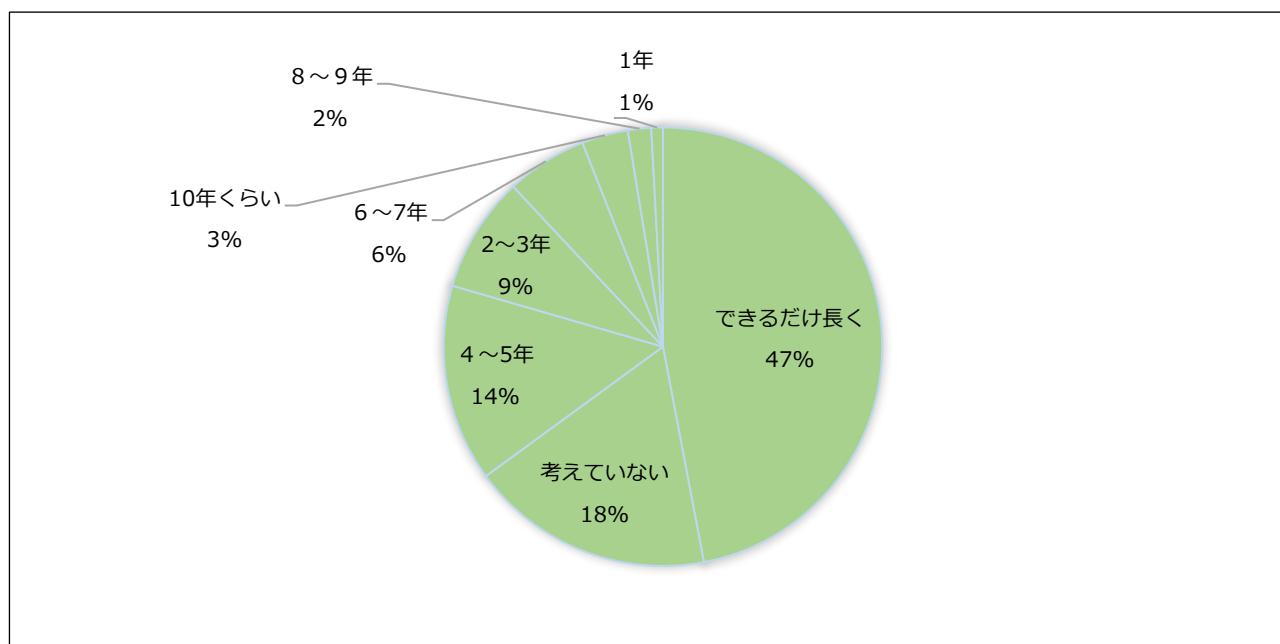
区分	合計 (校)	データ蓄積（記録）の状況		進路・キャリア支援におけるデータ活用の 状況（データ蓄積している = 100）	
		蓄積している	蓄積していない	活用している	活用していない
合計	100%（108校）	74%	26%	99%	1%

2 2022年度新卒者の傾向（特徴）

(1) 入社後の勤続予定（学生調査）

2022年3月卒業予定者で就職を予定している人に、入社予定先で、何年くらい勤続して働く予定かを聞いたところ、最も多いのは、できるだけ長く（47%）、次いで、考えていない（18%）、4～5年（14%）となっている（図表4）。

図表4 入社後の勤続予定

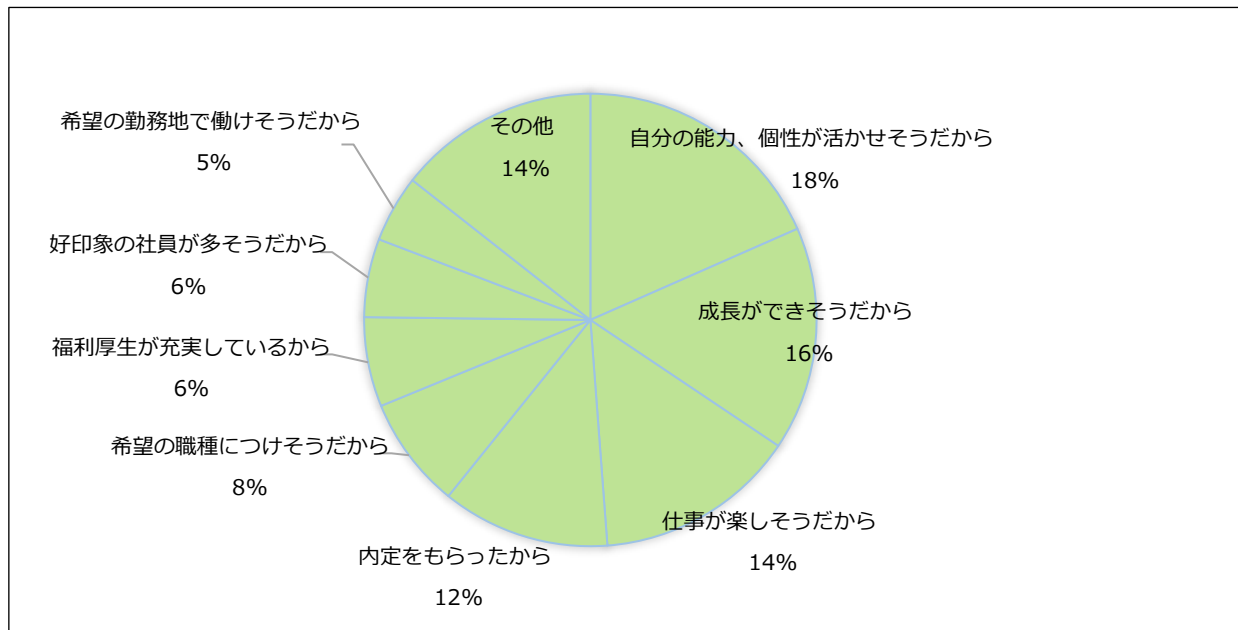


2022年3月卒業予定者の採用・就職に関するアンケート

(2) 就職先の最終的な決め手（学生調査）

2022年3月卒業予定者が最終的に就職先を選んだ決め手は、自分の能力、個性が活かせそうだから（18%）が最も多く、次いで成長ができそうだから（16%）、仕事を楽しそうだから（14%）となっている（図表5）。

図表5 最終的な就職先の決め手（1つ選択）



図表6 最終的な就職先の決め手（複数回答）

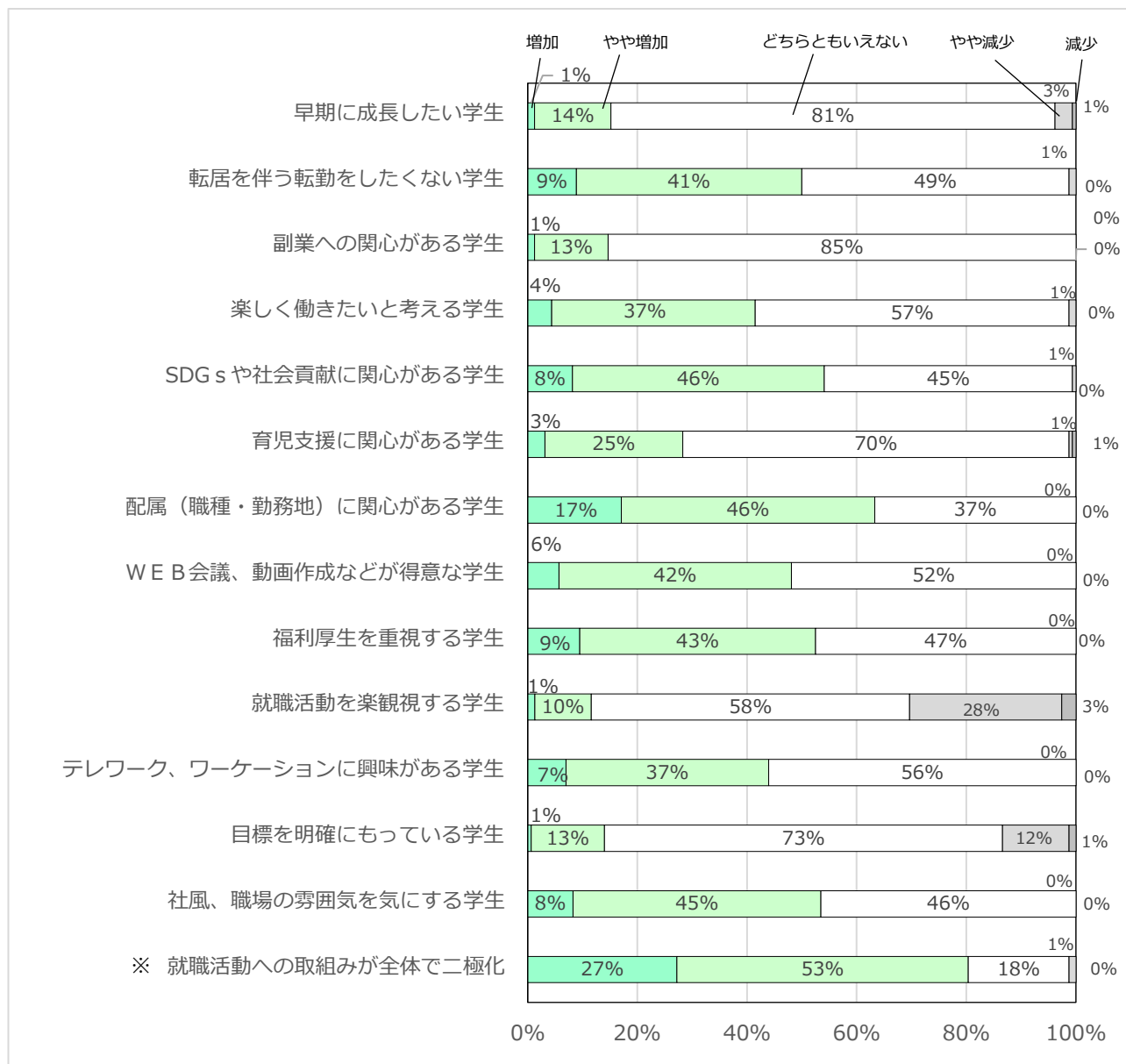
順位	重視した項目（複数回答）	割合
1位	自分の能力、個性が活かせそうだから	58%
2位	成長ができそうだから（将来に役立つスキル、技術を覚えられそうだから）	49%
3位	仕事を楽しそう（おもしろそう）だから	47%
4位	福利厚生（社宅、イベント、社員割引等）が充実しているから	40%
5位	内定をもらったから	39%
6位	好印象の社員が多そうだから	38%
7位	希望の職種につけそうだから	31%
8位	希望の勤務地で働けそうだから	28%
9位	休日が多いから	26%
10位	給料が高いから	23%

（注）上記以外の選択肢として、「給料が高いから」「職場が楽しそう（おもしろそう）だから」「自分のことをより理解してくれたから」「経営状態がよいから」「残業が少ないから」「テレワーク等、柔軟に働けるから」「知名度が高いから」「両立支援（育児支援策）が充実しているから」「知り合い（家族を含む）から薦められたから」「知り合いが勤務しているから」「その他」をあげて調査。

2022年3月卒業予定者の採用・就職に関するアンケート

(3) 進路相談や進路選択に関わるなかで感じた特徴（傾向）

図表7 就職活動や進路選択に関わるなかで感じた特徴（傾向）



(注) 1. 大学キャリアセンター、企業の採用担当者、就職・採用支援者の回答の合計。

2. ※については、就職活動への取組みの二極化について聞いたもの。グラフの項目は、左から「顕著である」「ややみられる」「どちらともいえない」「ほとんどみられない」「みられない」。

調査名	2022年3月卒業予定者の採用・就職に関するアンケート		
調査機関	産労総合研究所	調査時期	2022年2月12日～3月22日
調査対象	「ブンナビ×読売新聞2022」対象会員約100,000人、大学キャリアセンター約300校、就職・採用支援者約10人、企業担当者約300人。		
調査方法	郵送及びWEBによるアンケート調査方式（WEBによる回答についてはREASを使用）		
回答状況	締切日までに回答のあった新卒予定者137人、大学キャリアセンター108校、就職・採用支援者3人、企業50社について集計。		